

片岡南部サポートセンター集落連絡員が先進事例を視察

10月19日、片岡南部サポートセンター集落連絡員が複数集落で連携して農地の維持管理されている先進事例を学ぶため、福井県小浜市の一般社団法人宮川グリーンネットワークを視察しました（集落連絡員8名、JA北びわこ・長浜市・当課職員等の関係機関より8名の参加）。

片岡南部サポートセンターは、担い手が不足傾向の中山間地である長浜市余呉町片岡南部地域の6集落をエリアとして、広域で担い手の確保や農地の利用調整を実施する組織で、各集落の集落連絡員がその役割を担っています。

宮川地区は、過去に農業従事者の高齢化と担い手の減少による耕作放棄田の増加が問題となっており、その問題に対応するために広域で農産物の生産・加工等の生産販売機能を担う「株式会社 若狭の恵」を設立されています。さらに、農地などの地域資源管理や用排水路の整備等の公益機能を担う組織として「一般社団法人 宮川グリーンネットワーク」の2階建てとし、両者が相互に機能することで宮川地区農地の適切な維持管理を実践されています。

また、当日は「株式会社 若狭の恵」の所有する大規模園芸施設や米の乾燥・精米施設を見学した他、景観形成の一環として始められたひまわり跡を活用した地域ブランド「ひまわり米」の取組や水稻直播栽培の導入によって人件費を削減される等の事業内容についても研修できました。

参加された集落連絡員は活動内容について熱心に聞かれ、施設見学でも「ひまわり米」の取組や施設について質問されるなど意欲の高さが伺えました。

当課では、今後も片岡南部地域の農業・農村を守る取り組みが実施されるよう関係機関とともに支援を続けていきます。



宮川地区の先進事例について学ぶ



米の乾燥・精米施設の見学